

⑱ 新年摺

揚る時連も誘はて啼ひはり
 太簪は春をとり得し心かな
 氷りても今朝は走りて春の水
 空見ても遊はる、日や春の風
 手の足らぬなりに日暮て大根引
 行もとり旅の咄しやかれ野原
 月代や明石の浦の浪の音
 大松の下も子の日の遊ひかな
 此里にこのひと本や遅桜
 今取ていまか馳走や露の臺
 紅梅の蒼くろむやひとしきり
 梅越しに日の当りけり洗ひ炭
 飯喰に并ふうしろや福寿草
 万歳の袖から立ぬ朝の風
 咲たれはをる枝もなし梅の花
 正月やこゝろのおけぬ泊り客
 水音は不断に聞てはつかすみ
 橋下りて見出す雲雀の古巢哉
 霞む日や何所やら山も匂はしき
 白いのに咲かたれけり桃の花
 植込の雨聞えけり夜の長閑
 春もまた浅し水にもとる浪
 鴈鴨や空にも旅は見える春
 昇る日に添ふてけふるや草の霜
 降るを見て鶯鳴や春の雪
 常といふ日を正月の遊ひかな
 春の鳥人の臙に見ゆるまで
 露をさへ見初るけふの薺かな
 伸る日のそよく柳に見えにけり
 人ひとり見掛て遠し閑古鳥
 よい色に茶の出る朝や春簾
 葛水にや、くつろきぬ旅こゝろ
 菊の香にせまき離の座敷哉
 さしていふ松も野にあるえ方哉
 風もまた見えぬしなへや今年竹
 十月や馬につけ行青松葉

京 梅通
 浪花 素屋
 備前 昇左
 筑前 遠々
 肥前 松坡
 日向 悠々
 阿波 双鳥
 尾張 茶雷
 三河 而後
 相模 蓬宇
 甲斐 梅堂
 甲斐 彦貫
 信濃 斗一
 信濃 双柳
 文叔 事松
 和風 清良
 越後 清良
 積翠 鶯眠
 契史 積翠
 雪湖 契史
 秀女 契史
 常晴 秀女
 習静 常晴
 未足 習静
 乙良 未足
 茶三 乙良
 坡石 茶三
 桂留 坡石
 布山 桂留
 梅二 布山
 可應 梅二
 松露 可應

放し遣る鷹に気も添ふ行衛哉
 高飛もするや虫の群し中
 涼風やそたてし竹の吹通し
 早けれと泊りし家に雛かな
 若水やわひしく見ゆる古手桶
 春風に鶴の餌を蒔流れかな
 桐一葉小雨も晴し傘の上
 いつ晴てかゝる月夜やはるの雨
 元日やきのふには似ぬ日の長さ
 薪積たそとは若菜の畑かな
 かへり見る身は老近し鏡もち
 似合しき腰掛客やことし酒
 秋深し案山子にまとふ草のつる
 さはかしく淋しき秋の雀かな
 来た人のきけんにつる小春哉
 居直してはつきり聞や初からず
 前に川ひかへて春の寒さかな
 囀りやはり合ふかして鶏も鳴
 鶯ややとり木を見る雨の晴
 草の香に雨気つきたる二月かな
 うくひすの長飛を見る流れ哉
 膝に手をおけは声あり初鳥
 掛てある鍋に人なし桃の花
 太簪をくらへても見る弟かな
 見えぬ間は眼の遣はる、雲雀哉
 藪入や料理好まぬ身たしなみ
 堀掛し松の根にさく董かな
 見た事に心つきけり筆はしめ
 請合の日帰り舟や臙月
 海鳴りの和らく梅の匂ひ哉
 向ふうち心動かぬはつ日哉
 咲みちて夜空静まる桜かな
 夜も吹て居るや高みの春の風
 年札の口て払ふや袖の雪
 日の影は退てもまねく尾花哉
 朝冷のする此頃やわたり鳥
 灯の消て手の筋見ゆる火鉢哉
 寛のみ音の聞えてはるの雨

知芳 梅郷
 芝風 精器
 月山 朶山
 米沢 朶山
 鶯珍 朶山
 多よ女 朶山
 文起 朶山
 静夫 朶山
 春哉 朶山
 一宣 朶山
 清倭 朶山
 清民 朶山
 扇 朶山
 分字 朶山
 詠柳 朶山
 榑影 朶山
 五雲 朶山
 舍用 朶山
 南部 榑影
 三帛 榑影
 龍山 榑影
 まさこを 榑影
 雨清 榑影
 松賀 榑影
 億年 榑影
 雲甫 榑影
 嬉月 榑影
 呂月 榑影
 南溪 榑影
 南江 榑影
 吐月 榑影
 晚翠 榑影
 逸志 榑影
 李輔 榑影